



B&G ネットワークとともに
重機で広がる
安心・安全強い地域

防災拠点の設置および
災害時相互支援体制構築



事業紹介パンフレット



B&G財団とは

B&G財団は青い海（ブルーシー）と緑の大地（グリーンランド）を活動の場として、海洋性レクリエーションをはじめとする自然体験活動などを通じた、次世代を担う青少年の健全育成と、幼児から高齢者まで、国民の皆様の“心とからだの健康づくり”を推進している団体です。これまでに全国465カ所に所在するB&G海洋センターや全国274カ所に所在するB&G海洋クラブなどとB&Gネットワークを構築してきました。

これまでの活動にとどまらず、現在では、社会や地域が抱える課題解決に向けた事業も新たに実施し、現代ニーズに沿った幅広い事業を展開しています。

海洋センター



プール



艇庫



体育館

はじめに

先述にあるとおり、これまでの海洋センター・クラブを通じた全国の自治体とのネットワークを活かし、2021年度より新たに「防災拠点の設置および災害時相互支援体制構築」事業を開始しました。

災害大国と呼ばれるこの日本において、ハード面とソフト面の両方を融合した新たな形の防災拠点を整備し、災害資機材の配備と人材の育成を行うことで、迅速な災害復興と地域の防災力向上を目指します。

現在までに、第一期拠点 25 カ所、第二期拠点 29 カ所を設置し、将来的に全国 100 カ所の設置を目指しています。

防災拠点一覧

第一期

	ブロック	道府県	自治体名
1	北海道	北海道	滝川市
2			積丹町
3	東北	青森県	鶴田町
4		岩手県	久慈市
5		宮城県	亘理町
6			大崎市
7	関東	千葉県	鋸南町
8		茨城県	五霞町
9	北陸	福井県	大野市
10	中部	長野県	上松町
11		静岡県	牧之原市
12		三重県	志摩市
13	近畿	兵庫県	南あわじ市
14	中国	広島県	北広島町
15		岡山県	奈義町
16			矢掛町
17		鳥取県	北栄町
18			伯耆町
19	四国	愛媛県	愛南町
20		徳島県	海陽町
21		高知県	四万十町
22	北九州	福岡県	築上町
23	南九州	熊本県	湯前町
24			長洲町
25		鹿児島県	天城町

第二期

	ブロック	道府県	自治体名	
1	北海道	北海道	石狩市	
2			名寄市	
3			鷹栖町	
4	東北	秋田県	男鹿市	
5		山形県	酒田市	
6		宮城県	石巻市	
7		福島県	塙町	
8	関東	群馬県	明和町	
9		千葉県	みなかみ町	
10			いすみ市	
11	北陸	新潟県	佐渡市	
12		石川県	白山市	
13	中部	長野県	大町市	
14		岐阜県	可児市	
15		愛知県	新城市	
16	近畿	滋賀県	野洲市	
17		京都府	南丹市	
18	中国	島根県	雲南市	
19	四国	徳島県	徳島市	
20			長崎県	南島原市
21			大分県	別府市
22	北九州	熊本県	南阿蘇村	
23			宮崎県	宮崎市
24				日向市
25		鹿児島県	いちき串木野市	
26			奄美市	
27			南大隅町	
28			与論町	
29			沖縄県	名護市

事業概要

3つの柱

1 防災拠点の整備

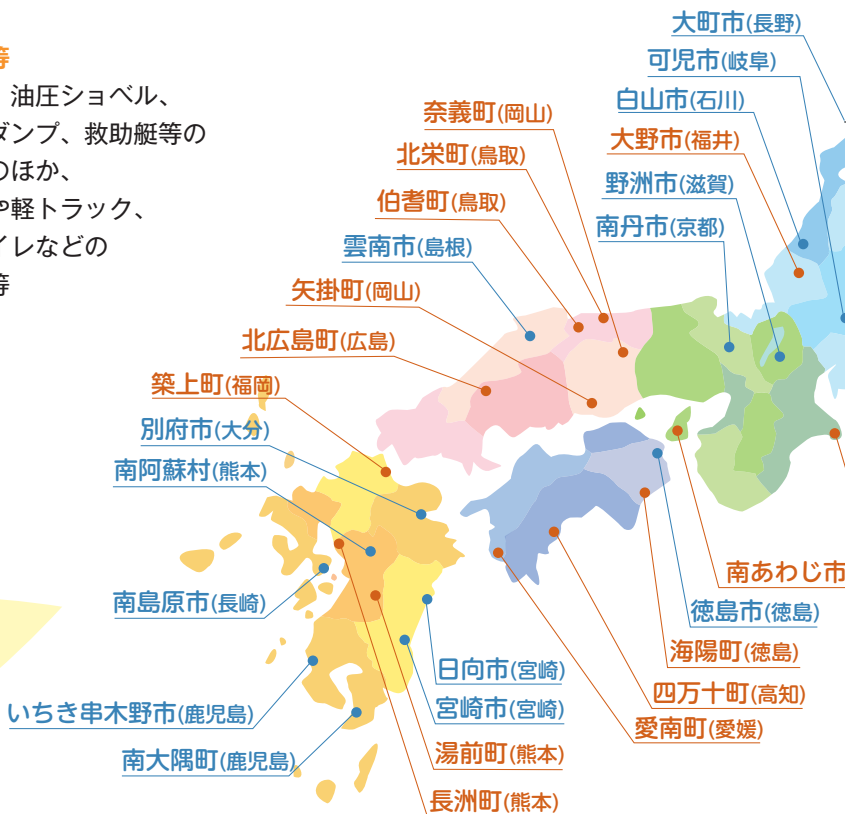
災害発生時の緊急対応や避難所運営に必要な重機・救助艇等の機材配備、そして防災倉庫の設置等、ハード面の整備を進めています。

●支援金額

上限3,000万円
または上限4,500万円

●対象機材等

防災倉庫、油圧ショベル、スライドダンプ、救助艇等の必須機材のほか、ドローンや軽トラック、災害用トイレなどの防災物品等



防災拠点一覧

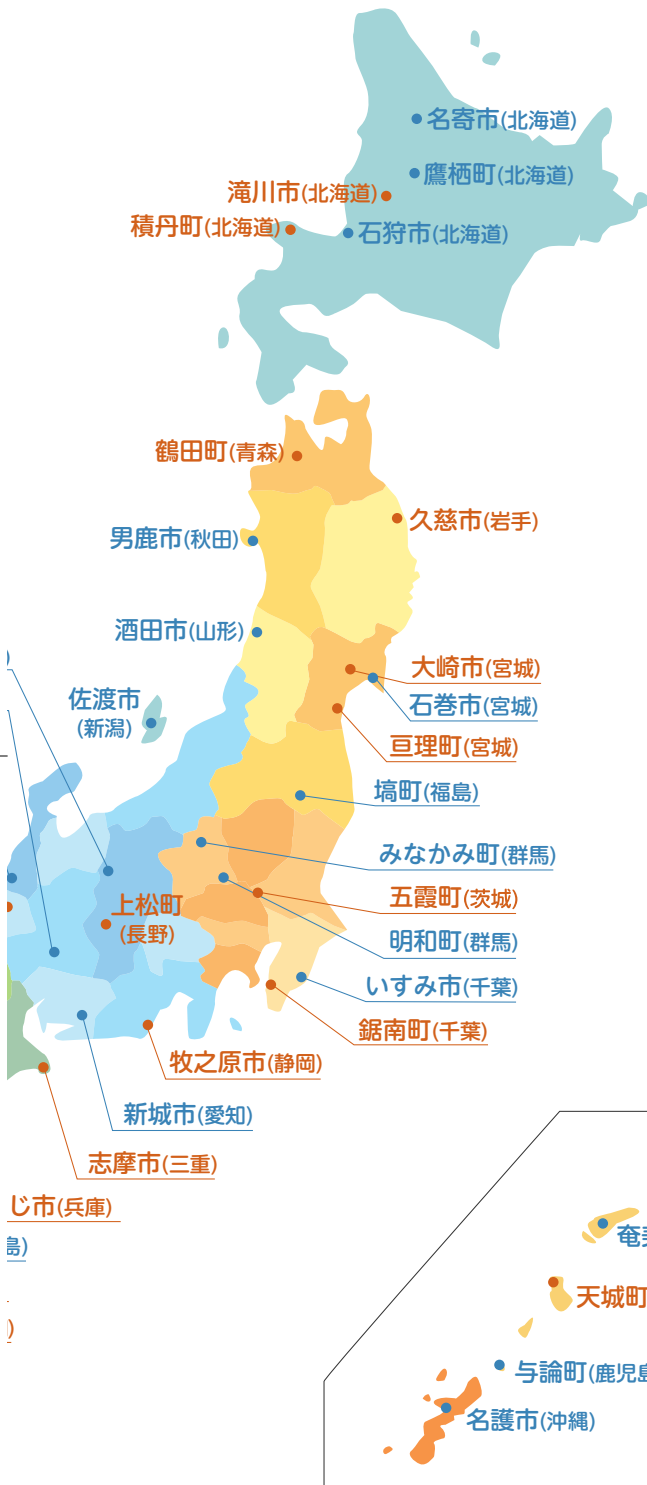
2 人材育成

災害発生時に、拠点設置自治体を超えた緊急対応を行うため、人材育成に係る研修を実施し、ソフト面の強化を図ります。

- 重機操作研修や救助艇研修を実施するための研修費として、上限300万円(1カ年)を原則3カ年にわたり支援。

3 災害時相互支援体制の構築

災害時に、防災拠点に整備した資機材や研修受講者による迅速な支援活動を行うため、周辺自治体を含めた相互支援体制を構築します。



- 第一期 25 拠点
- 第二期 29 拠点

必須機材の紹介

1 油圧ショベル

今回配備するのは小型の油圧ショベルです。全拠点ほぼ同一の内容で配備します。

被災地において、ガレキや土砂が散乱する道路や土砂崩れが発生した現場などの撤去作業を行い、自治体、そして、地域の復旧・復興に活用されます。また、小型なフォルムであることから、家屋倒壊などにより道幅が狭く、大型機械の進入が困難な場所でも復旧作業が可能です。



2 スライドダンプ

資機材の運搬に使うスライドダンプを配備し、迅速に被災地域への派遣を行うとともに、早期復旧を目指します。

本事業で配備するスライドダンプは2つのポイントがあります。油圧ショベルを安全に載せるため、荷台をスライドすることができる機能と、土砂やガレキの排出に必要な荷台を持ち上げることができる機能（ダンプアップ）です。

災害に備え、本事業では、小型油圧ショベルとスライドダンプを一对で配備するとともに、これらを扱う重機操作研修を実施し、人材育成も進めています。



3 救助艇

近年の激甚化する豪雨災害の頻発により、広域な浸水地域からの避難が課題となっている中、救助艇を配備したことで、迅速で安全な避難や救助を実現させ、地域住民の安全を守ることができます。

また、浸水地域や河川等での救助活動は、流動的かつ危険を伴う環境下であることが想定されるため、常時より研修を実施し、発災時に対応可能な人材育成も進めています。



4 防災倉庫

配備した資機材やその他災害時の備蓄品等を保管する場所として、防災倉庫を整備します。

今回整備された防災倉庫は、有事でも地域住民の安心・安全の確保が迅速に行えるよう、安全性が高く、避難所物資などを確実に運搬可能な場所に設置しました。

また、防災倉庫は、各地域の特性や気候に合わせた仕様となっています。



研修紹介

B&G財団主催の広域研修

●広域研修A（全拠点参加研修）



全国の防災拠点の担当者等が一同に会した研修会「広域研修A」を実施しています。2023年度は、災害時の積極的支援をテーマに、ミッションを解決しながら災害支援の流れを理解するアクティブ型ワークショップや、実際の災害支援時のトラブルについて、当時の状況を再現したディスカッションプログラム、各拠点の事例共有やポスターセッションなどを実施しました。

●広域研修B／広域モデル救助艇研修



各防災拠点では、配備機材を活用し、発災時における支援活動の核となる人材の育成を目的とした実技研修を実施しています。

「広域研修B」では、被災地における油圧ショベルの動きを学ぶことを目的に実施しました。過酷な環境下で重機を操作するため、基礎だけでなく応用操作も含めた内容となっています。

「広域モデル救助艇研修」では、水災害を想定した救助艇研修を福島県南相馬市で実施しました。水災害対応の大きな課題である「広範囲での被災による人員不足」に焦点をあて、浸水家屋からの人命救助や傷病者の搬送など、実践的な内容となっています。

各防災拠点で実施している研修

●資機材（重機・救助艇等）を活用した研修

広域研修で得たノウハウを活かし、各拠点で災害時に重機や救助艇を活用できる人材を育成する研修を実施しています。



●避難所での研修や防災教育



【女性視点の避難所運営】や【防災教育】等、各拠点が地域課題を考え、新しい内容を盛り込んだ研修会も実施しています。

災害時相互支援体制構築

●B&G財団と防災拠点所在自治体との協定締結及び配備機材お披露目式



本事業で配備した資機材の管理や継続した研修の実施、災害発生時における被災地支援等について取りまとめた協定を締結します。また、資機材のお披露目式も実施し、地域住民へのPRを行っています。

●各防災拠点の災害時相互支援体制構築

各防災拠点では、自治体の災害対応の強化や拠点間での連携をはじめ、様々な団体と協定を締結するなど、災害時における相互支援体制を構築しています。

[協定先例] 他防災拠点、民間企業や団体、広域消防 他

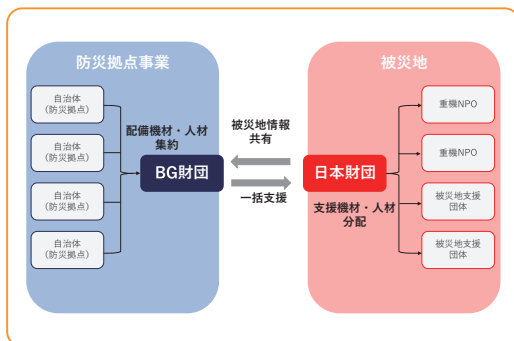


災害支援活動

令和6年能登半島地震



令和6年1月1日に発生した最大震度7の「能登半島地震」は、海洋センター所在自治体も含め多くの地域が被災しました。その中でB&G財団と各防災拠点、日本財団等が連携した災害支援を実施しています。



日本財団が被災地の支援ニーズを集約し、B&G財団が全国の防災拠点から資機材を派遣する等、両財団が協力して、被災地への迅速な支援を実現しています。

◀災害支援フロー

また、防災拠点に配備した資機材や人材が、自治体独自の「プッシュ型支援」や被災自治体からの要請による「プル型支援」として被災地へ派遣されています。能登半島地震では、避難所の水不足が深刻な問題となったことから、給水タンクを積載したスライドダンプや給水車による支援が実施されました。



その他災害支援活動

●宮城県石巻市（県を跨いだ災害支援）



令和5年7月14日に秋田県内で豪雨災害が発生しました。秋田県五城目町では泥の撤去や災害ごみの運搬等に課題を抱えている中で、石巻市から五城目町へ、災害対策基本法に基づいた災害支援が実施されました。配備機材の運搬や点検等は、研修を受けた人材が実施し、被災地に重機を届けました。

●熊本県湯前町（重機NPOと連携した災害支援）

令和5年7月10日に九州北部で線状降水帯による激しい雨となり、河川の氾濫や土石流が発生し甚大な被害を引き起こしました。

熊本県湯前町は、B&G財団と締結した協定や町の機械管理規定に基づき、重機操作訓練にて講師依頼をしている重機NPO「ボーダレスファイヤー熊本」と連携した災害支援を実施しました。



●宮城県亶理町（県内市町村間の災害時相互応援協定に基づいた支援）



令和4年7月15日に宮城県内の豪雨により、同県内松島町では、河川氾濫や土砂崩れが発生しました。発災2日後、亶理町と松島町間の「災害時相互応援協定」に基づき、重機の貸出等の支援を実施し、松島町で発生した土砂の撤去等の活動を行いました。



重機研修



重機研修での操作訓練の様子



避難所研修



決定書授与式